

ホットな福祉情報誌

はあとふるふくしま

特集

110年の想いをつなぐ
地域住民に寄り添う民生委員
児童委員、主任児童委員

シリーズ 未来へつなごう“ふくしま”から

福島から全国モデルとして発信
人目を気にせず受け取れる！
新しい「お互いさま」の形
(コミュニティフリッジひまわり)

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。

今回の表紙

高齢者疑似体験には
「気づき」がいっぱい！

体験を通して相手の立場で
考えることを学びました。

(二本松市・二本松市立石井小学校)

HP



Instagram



「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。



赤い羽根で
ささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会

〒960-8141 福島市渡利字七社宮 111
(福島県総合社会福祉センター内)
電話 024-522-0822 FAX 024-528-1234
メールアドレス akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ <https://akaihane-fukushima.or.jp/>



赤い羽根ふくしま福祉活動助成金 助成先紹介

福島県共同募金会では、安心・安全で住みよい福祉のまちづくりや地域の福祉課題を解決するために活動するボランティアグループやNPO等の支援・育成を目的に、公募による助成事業を行っています。

今年度は、去る7月7日開催の配分委員会において厳正に審査した結果、以下のとおり4団体に助成することが決定いたしました。

助成金の原資には、令和7年度共同募金運動(実施期間:令和7年10月1日から令和8年3月31日まで)で県民の皆様、企業の皆様、関係機関・団体の皆様のご協力によりお寄せいただいた募金の一部が活用されています。

ご寄付をいただいた皆様には改めて御礼を申し上げますとともに、福島県共同募金会では、今後とも地域の皆さまが主体となった様々な福祉活動を応援していきたいと考えておりますので、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

郡山市 NPO法人ともす舎
「依存症を知るセミナー」福島キャラバン

いわき市 おはなし会「わっ!」
重症心身障がい児者等を対象とした読み聞かせ「おはなし会」開催事業

いわき市 NPO法人はなのころ
障がい者作家の社会的孤立を防ぐ作品デジタルアーカイブ構築と発信事業

**二本松市 全国ギャンブル依存症
家族の会福島**
ギャンブル依存症当事者・家族支援及び子育て支援を含む家族会事業

この助成事業の原資には、令和7年度共同募金運動で寄せられた募金が役立てられています。

「トモ開催しています」と話すのは「コミュニティフリッジひまわり」を運営する、NPO法人チームふくしまの理事長の半田さん。バーベキューや夏祭りなどでは、利用者がスタッフとして働く機会を設け、地域とのつながりを育みながら収入を得る仕組みも整えています。支援を受けるだけでなく、一人ひとりが地域を支える側として活躍できる場をつくっていることも、大きな特長です。また、就労や学習、お金の管理などの情報も提供し、物品以外の面でも利用者の生活を支える支援を行っています。

活動のきっかけは、東日本大震災でした。当時、半田さんは、避難所や福祉の現場で「支援する側・される側」という一方通行の関係ではなく、「お互いさま」で支え合う仕組みが必要だと感じていました。そこで出合った考え方が、全国で広まりつつあった「コミュニティフリッジ」の取組でした。「最初は成り立つか不安でしたが、震災を乗り越えた福島県民には、お互いさまの精神があります。喜んで寄付する方

お互いさまの精神で
社会全体を豊かに

もいれば、イベント開催時には、地域の高齢者がいきいきと協力してくれることもあります」と半田さん。ブランドマネージャーの山田さんは「ひとり親の方が、利用をきっかけに看護師として就職し、安定した生活を送れるようになりました」と笑顔で教えてくれました。

これからは福島県内だけでなく、日本各地へノウハウの提供も進めていきたいとのこと。お互いさまの精神で支え合うことが、社会全体の豊かさにつながり、ひまわりのように福島をの地を明るく照らしています。

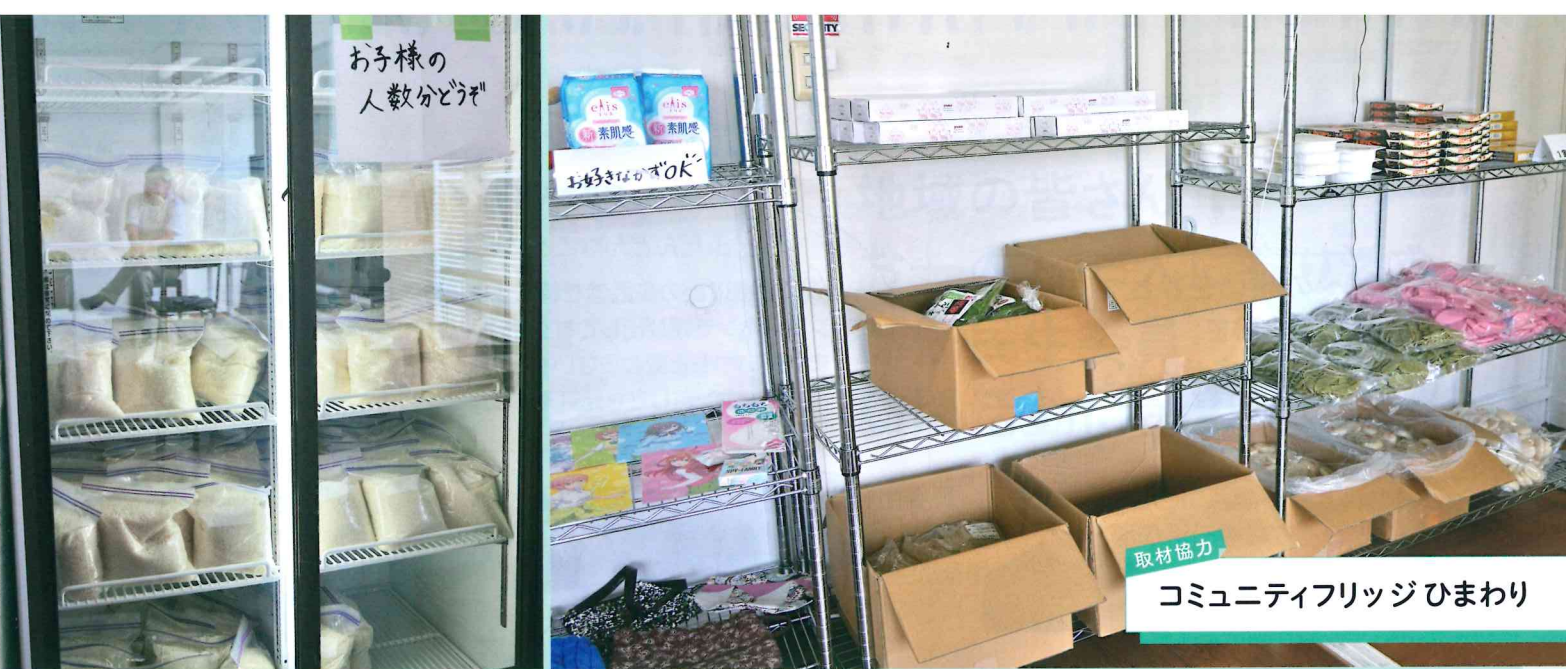


コミュニティフリッジひまわりは、NPO法人チームふくしまの創設者 故・吉成 洋拍さんの遺志も引き継いでいます。

NPO法人
チームふくしまの
取組の詳細はこちら



施設内には、利用者から寄せられた感謝のコメントがずらり。



コミュニティフリッジ ひまわり

お米やレトルト食品などの食料品、生理用品や文房具など、さまざまな種類の寄付品があります。



国民生活基礎調査によると、相対的に貧困状態にある子どもの割合は 11.5%となっています。特にひとり親世帯の貧困率は 44.5%と高い状態にあります。

こうした中、経済的な事情を抱える人が、周囲の目を気にせずに必要な食料品や日用品を受け取れる仕組みがあるのをご存知でしょうか。今回は、コミュニティフリッジ※ひまわりを紹介します。

※コミュニティフリッジ：生活に困りごとを抱える親子などが、時間や人目を気にせず、食料品や日用品を無料で受け取れる仕組み。「フードバンク」と異なり、冷蔵品や冷凍品、生鮮食品も取り扱うのが特徴。

人目を気にせず
受け取れる！新しい
「お互いさま」の形

福島から全国モデルとして発信



◀施設の運営には生活介護事業所の利用者も関わり、施設の清掃を行っています。

▶支援者として登録した地元企業の人が寄付品を届けます。



「コミュニティフリッジひまわりは、生活に困りごとを抱える家庭が、食品や日用品を受け取れる無人数人型の子ども食堂です。利用できるのは、経済的に困難を抱えたひとり親世帯等となっており、事前登録制です。人と顔を合わせることなく必要な支援を受けられるため、助けを求める際の心理的な負担を軽減しています。届けられる品物は、地域・企業や団体、個人から寄付された食品や日用品が中心です。フードロスの削減につながるだけでなく、人を介さずにインターネット等でも支援できる取組として、注目を集めています。

「寄付だけでなく、季節のイベント

匿名で品物を受け取れる
無人型の支援拠点



ブランドマネージャー
やまだ さやか
山田 沙也加さん

理事長
はんだ しんじ
半田 真仁さん

大学との共同研究や幸福度の見える化などにも取り組み、「食料品等の支援」にとどまらない地域づくりモデルを目指しています。

NPO法人 チームふくしま